

pH 計分析方法

◎ pH 計構成図



◎ 校正手順

1. 保護キャップを外します。
2. 上部のスイッチをスライドさせ、電源を入れます。
3. (はじめて使用する、または長期間使用していない場合は右の画像のようにpH 保存液をpH 試験管の下のラインまで入れ、電極を一晩湿らせてください。この時は電源を入れる必要はありません)



4. 水の入っている容器に温度計を入れ温度を測ります。あらかじめ容器には純水を容器いっぱいに入れておき、校正液と同じ条件下で温度を測ります。



5. 標準液温度表で pH 7 標準液、pH 4 標準液の pH 値を確認します。(表はボトルに記載)

pH7 の場合 15℃であれば 6.90

※温度は四捨五入してください



温度	pH 7
0	6.98
5	6.95
10	6.92
15	6.90
20	6.88
25	6.86
30	6.85
35	6.84
40	6.84
45	6.83

6. pH 7 標準液を pH 試験管のラインのところまで移します。



7. pH 電極を浸けます。
浸す前に電極を純水でよく洗い、きれいな
ティッシュなどでよく拭きます。

【注意】

**pH7 液に影響がでますので電極部の隙間
に残った水はしっかり拭き取ってください**

電極部に泡が入ないようにしてください



8. 電極を液になじませるため、数回まわします
泡が入っている場合は追いだしてください。

【注意】

泡が入ると正しい数値を示しません



9. モニターの数値が安定するまで待ちます。

10. 数値が安定したらドライバーで pH7 のダイヤル(左)を回しながら、pH7 標準液温度表で確認した数値に調整します。



11. 試験管から pH 電極を抜き、電極部を純水でよく洗い、きれいなティッシュペーパーなどで水を拭き取ります。

【注意】

次のpH4液に影響がでますので電極部の隙間に残った水はしっかり拭き取ってください



12. 続いて pH4 標準液に電極を浸けます。手順8と同様に液に電極をなじませ、pH7と同じ手順でpH4の調整を行います。

13. 数値が安定したら pH4 標準液温度表で確認した数値に調節します。

【注意】

pH7のダイヤルとpH4のダイヤルを間違わないようにしてください



14. 10の手順と同様に試験管から pH 電極を抜き、電極部を純水でよく洗い、続いてサンプル測定に移ります。

一度使用したpH標準液は容器に戻すと変質、劣化の原因となりますので再度の使用はできません

◎ サンプルの測定

1. 止めゴムを取付けます。



2. 泡が入らないようにサンプルに電極を差し込みます。
上のライン 1cm ほどになるまで浸けてください。

※ サンプルの準備は分析手順書を参照ください



3. 電極を液になじませるため、電極を数回まわします。電極部に泡が入っていれば、追い出してください。その後モニター数値が安定したら、数値を読みます。

※ 実際、数値が安定するまでの静止は
pH 用試験管立てを利用してください



電極部に泡が入いようにしてください

4. 試験管から pH 電極を抜き、電極部を純水でよく洗い、きれいなティッシュなどで水を拭き取ります。



5. 1 からの出順で次のサンプルの測定を行います。

6. 測定終了後は電源を切ります。

7. 保存液を保護キャップに 5 滴入れ、
空気が入らないように電極部に取り
付けます。
保護キャップをやや押しながら取り
付けると空気が入りにくくなります。

